

統合新領域学府

I	教育の水準	教育 32-2
II	質の向上度	教育 32-4

I 教育の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目 I 教育活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「教育実施体制」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 課題解決に取り組む実践的教育のため、実務経験がある教員の配置や非常勤講師の招へいを行っている。ユーザー感性学専攻のプロジェクトチームラーニング（PTL）は、教員がテーマを設定し、企業、行政機関、地域社会と連携の上、実施している。また、オートモーティブサイエンス専攻では、1か月から4か月のインターンシップを実施しており、主に自動車産業の企業と連携して、実践的な教育を行っている。
- 入学者選抜試験は口頭試問を重視し、主に留学生を対象とした秋入学、留学生と社会人を対象とした特別選抜等を実施している。また、各専攻で入試方法等の検討を行っており、ライブラリーサイエンス専攻では、修士課程入学者選抜試験について、平成26年度から英語の筆記試験を導入し、平成27年度からはTOEIC等の外部試験を活用するなど、入試方法の改善を図っている。
- 受講生による授業評価アンケート、学外関係者からの意見聴取、全学的な教育活動の改善の取組等を通じて、教育目的を達成するための質の改善及び向上を図っている。インターンシップ受入企業の担当者から意見・要望の聴取により、インターンシップの実施要領を改善している。

観点1-2「教育内容・方法」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 専攻ごとにカリキュラム・ポリシー（CP）を定め、CPに従って教育課程を編成するとともに、修了後のキャリア像等を念頭に置いた履修モデルを作成している。オートモーティブサイエンス専攻では、「主専攻・副専攻制」により専門に関連する科目も履修できるよう工夫しており、平成22年度から平成26年度における修了生の副専攻の習得率は63.8%となっている。
- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）におけるオートモーティブサイエンス専攻のインターンシップでは、延べ131名を21社の自動車関連企業に派遣し、約6割の学生が60日以上インターンシップを経験している。また、平成26年度の事後アンケート結果では、94.7%の学生がインターンシップ

について肯定的に回答している。

以上の状況等及び統合新領域学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「学業の成果」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 第2期中期目標期間における学生の査読有りの論文件数は、平均約17件となっている。また、学生の国内外の学会での受賞件数は、計20件を超えており、国際会議の優秀発表賞等の各賞を受賞している。
- 平成25年度に実施した在学生を対象としたアンケート結果では、学府の教育目的の達成度に関する4項目に対して、約70%以上が肯定的に回答している。また、教育課程等の満足度に対して、約70%以上が肯定的に回答している。

観点2-2「進路・就職の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成22年度から平成26年度における修士課程の就職率は平均90.4%となっており、製造業、情報通信業等の企業に就職している。また、博士後期課程の就職率は平均78.8%となっており、製造業、学術研究、専門技術サービス業等の企業や研究機関に就職している。
- 平成25年度に実施した学業の成果に関する修了生へのアンケートでは、「大学院入学時に比べ能力は向上したか」に関する質問のうち、「未知の問題に取り組む姿勢」、「分析的に考察する能力」等の6項目で、肯定的に回答した者の割合は80%以上となっている。

以上の状況等及び統合新領域学府の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「教育活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 授業評価アンケート、学外関係者からの意見聴取、全学的な教育活動の改善の取組等を通じて、教育目的を達成するための質の改善・向上を図っている。平成 25 年度の学生アンケート結果を踏まえ、英語による国際会議での発表を推奨する等の取組を行ったところ、平成 27 年度のアンケートでは、「英語の運用能力」の割合は約 6 ポイント、「国際的に物事を考える力」の割合は約 18 ポイント、それぞれ向上するなど 13 項目のうち 11 項目で肯定的な回答が増加している。

分析項目Ⅱ「教育成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 平成 22 年度から平成 26 年度における修士課程の就職率は、86.5%から 95.0%の間を推移している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における教育水準の結果も勘案し、総合的に判定した。